食のサプライチェーンを支えつづける使命

ニチレイグループは、創業当時より日本におけるコールドチェーンのリーディングカンパニーとして、社会の発展と人々の生活の向上に貢献してきました。大規模自然災害やパンデミックにさらされる時代において、“食”はヒトの命に関わる重要な事項だと認識しています。当社グループの使命は「食のサプライチェーンを支えつづけること」です。

食のサプライチェーンを持続または早期に復旧できる体制を整えることで、「社会にとってこれまで以上に必要な企業グループとなること」ができると考えています。この考えに基づき、リスクマネジメント体制の強化や包括的な事業継続計画（BCP）の構築に取り組んでいます。

リスクマネジメント体制

ニチレイグループは、事業活動を行う上での様々なリスクを、全体的視点から合理的かつ最適な方法で管理し、グループの企業価値を最大化するため、代表取締役社長を委員長とするグループリスクマネジメント委員会を設置しています。委員会がグループ全体のリスクの識別・評価を行い、構築したリスクマネジメントサイクルにもとづき、当社および各事業会社は自主的に対応するとともに、重要な事項については持株会社の取締役会等へ報告のうえ対応を協議しています。

事業継続計画（BCP）への取り組み

■ 従業員の安全確保

＜グループ対策本部（新型コロナウイルス感染症対応）の設置＞

2020年1月、新型コロナウイルス感染症に対応するため、グループ対策本部を設置しました。ニチレイグループ全体に対する情報収集・共有を行うとともに、勤務体制や感染防止対策について、2020年1月から7月までに24回の指示を社内イントラネットにおいて発信しています。従業員の感染防止と事業活動の両立を図るため、危機管理体制を構築しています。

＜災害時等の安否確認＞

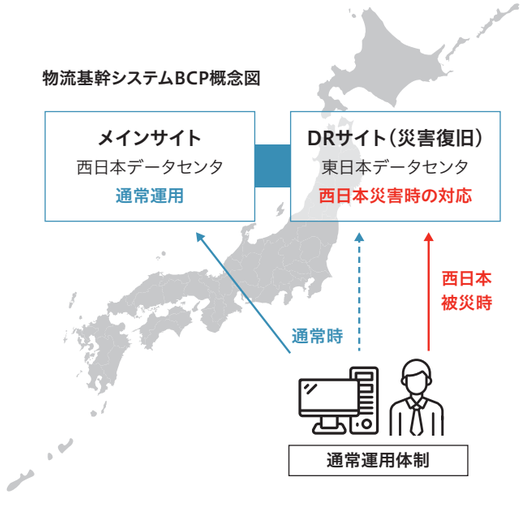
ニチレイグループ全体で、安否確認システムを導入しています。震度5強以上の地震などの災害等が発生した場合に、安否確認メールや現地情報を入力する旨のメールが従業員に一斉送信され、それらの情報が専用ホームページで閲覧および集計できるなど、情報共有を迅速に行えるシステムです。

■「物流基幹システムの事業継続計画（BCP）」対応の強化

ニチレイロジグループでは、リスクマネジメントの一環として、2018年2月より物流基幹システムのBCP対応の強化を図りました。一極集中となっていたデータセンタの被災を想定して、迅速な事業継続を可能とするディザスタリカバリ（以下、DR）を構築しました。大規模災害の発生時、メインサイトからDRサイトに切り替える「2拠点化」を実現することにより、速やかに業務復旧を進めることができます。

DR発動からオンライン再開までの時間は約1時間と、様々な状況下でお客様の業務や食品物流に影響を与えない最大限の配慮がなされています。取引先の事業継続にも寄与することを目指し、食品物流のライフラインとして先進的な取り組みを実践していきます。

物流基幹システムBCP概念図



事例　ニチレイロジグループでの事業継続計画（BCP）の取り組み

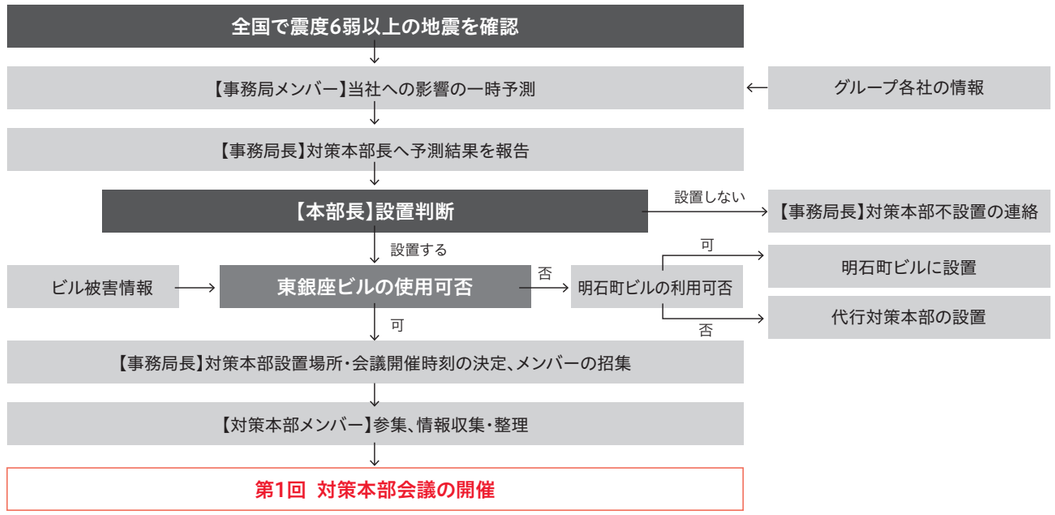
■ ニチレイロジグループでのBCPの取り組み

近年自然災害により各地で甚大な被害が発生しており、ニチレイロジグループでは地震・津波、台風等風水害に関し事業継続計画（BCP）を策定し、従業員等の安全確保、取扱貨物の保全を優先したリスクマネジメントを行っています。

毎年台風シーズン前には、「台風等災害発生予測時の対応について」の文書をホームページで発信するとともに、取引先様に臨時休業・営業時間の変更を行う場合の対応についてご案内しています。

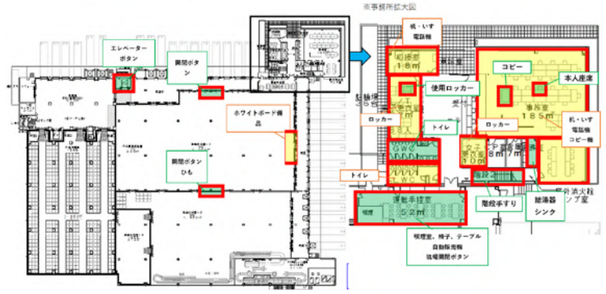
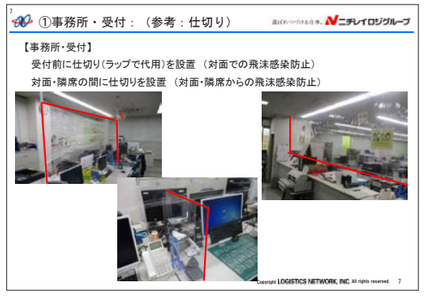
また、新型コロナウイルス対応については、事業所での感染防止対策の実施だけではなく、時差出勤・テレワークの推進やサテライトオフィスの開設など勤務方法の変革にも取り組み、従業員の安全確保と事業継続の両立を図っています。

■ 対策本部設置フロー（地震・災害対策用）



■ 新型コロナウイルス対策マニュアル

「施設消毒マニュアル」



「感染拡大防止（濃厚接触防止）ガイドライン」